

「第2回国際平和省会議(ピープルズサミット)」(きくちゆみ) 2006/06/21



WORLD PEACE FORUM 2006  
VANCOUVER, CANADA 23-28 JUNE

<http://www.worldpeaceforum.ca/>

カナダのビクトリアで行われている第2回国際平和省会議(ピープルズサミット)にきています。昨日(6月20日)までの二日間は、紛争解決や非暴力コミュニケーションのトレーニングがあり、19カ国45名が参加しました。今回の参加国は、カナダ、イスラエル、パレスチナ、ウガンダ、リベリア、ネパール、インド、フィリピン、ソロモン諸島、アメリカ、コスタリカ、イギリス、日本、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、スペイン、オランダ、ルーマニア。前回は11カ国でしたから、確実に増えています。

しかし、招待した第三世界の国々でアフリカ諸国の3カ国はビザが降りなかったために、来ることができませんでした(飛行機の故障で遅れたリベリア代表はサミット終了後にやっとビクトリアに到着)。まだまだ自由な移動や発言が許されない場所がこの地球上には存在していることを間近にかいま見て、心が痛みます。

非暴力コミュニケーション(NVC)のトレーナーはイスラエルとアメリカの二重国籍を持つミキさんという女性でした。彼女のファシリテーションも素晴らしく、ぜひこのトレーニングを日本でも行いたいと思いました。言葉の中から暴力性を取り除くこの訓練は、私にとってとても役立つことになりそうです。今回はワークショップの中でほんのさわりをやっただけですが、これまで学んだジョアンナ・メイシーの絶望のワークや全生命のワークにちょっと似ています。ミキさんがジョアンナと友だちであることを知って、うれしかった。

初日は歌で始まりました。歌を歌うということは、自分自身の体と声を感じ、今・ここに100%生きることの表現であると同時に、声を合わせるといことは、相手の声を聞く、ということの練習です。音をあわせられない(日本語では音痴といひますね)人というのは、よく聞いてない人だそうです。まず相手の声をよく聞くこと。自分の出す音がわからないときは、みんなの声に自分の声を小さい声で合わせ、そこにハーモニーが生まれるか、注意します。音が合えば素敵ですし、ハーモニーができれば、もっと美しい体験をします。

「聞くこと」「ハーモニーを生み出すこと」。これが平和の基本だ、ということで、とても象徴的な導入になりました。19カ国の初めて出会う集団が、たちまち美しいハーモニーを生み出した瞬間には、涙がでそうなほど感動しました。歌の指導はシバーンというカナダ人女性。ビクトリアでコーラスの指導をしています。

それからトランセンのカイさんのファシリで簡単な自己紹介のあとに、なぜそれぞれがここに来たのか、平和省の仕事は何か、などをグループわけで行いました。

二日目も歌で始まり、それから平和省のそれぞれの仕事を9つのグループにわけ、自分がやりたい仕事のテーブルで、実際に仕事をしたかのように、グループで仕事をしました。わたしは国レベル(省庁や議員、議会など)のロビイングのグループに入りました。

最後にはグループごとに発表をしたのですが、それぞれのグループ発表では、歌あり、劇あり、踊りありで、とても創造的なものでした。平和を創る活動は、大変なことでありますが、とても創造的に進める工夫が大切です。それが戦争や紛争の過酷な現実には押しつぶされそうになるのを、助けてくれます。

創造性。生きることの源ですね。私達がコーラスの練習をしているのをポッドキャストにアップしたので、聞いてみてください。最初は音が合っていないのですが、だんだん合ってくるのがわかります。もちろん、私達は歌のグループではありませんから、歌が苦手な人もたくさんいます。それでもここまでできるのは、ステキです。

今日はいよいよ本会議が始まります。日本からは、佐々木良雄さん、中川英明さん、原義和さん、小川あきらさん(富山県/元県議会議員)、森川裕子さん(通訳)、早川しげ子さんが参加しています。どんな展開か楽しみです。英語が得意ではない人もいるので、いろいろ大変でもありますが、世界の紛争解決のために実際かかわっている人たちと出会える喜びは大きいです。

<http://www.worldpeaceforum.ca/>

「第2回国際平和省会議(その2)」(きくちゆみ)

2006/06/22

今日(6月21日)から第2回国際平和省会議がビクトリアのロイヤルローズ大学で始まりました。最初はまたシバーンさんのリードで合唱をして(だんだんコーラスグループのようになってきました!）、カナダのモホークネイションのダイアナ・ロングボートさ

んの平和の儀式とお祈りで開会しました。



スクールバスに乗ってロイヤルローズ大学へ向かう国際平和省会議の各国代表たち

ここから先は、自分のために書いたメモです。

ブログではありませんので、興味のない方は飛ばしてください。

=====

カイの司会で、イギリス、アメリカ、日本、オーストラリア、カナダのプレゼンテーションを7分ずつ。

イギリス:発表者ダイアナ・バスタフィールドとジョン・マクドナルドが創始者。ジョンはクシニッチの影響を受けて、平和省法案を作成、イギリス議会に提出。まだ可決はしていない。

アメリカ:発表者ドット・メイバー ピースアライアンス。デニスクシニッチの大統領選挙にかかわったメンバーの中から生まれたピースアライアンス。午後に詳しいプレゼン。

日本:発表者きくちゆみ クシニッチとの出会い2003年、彼の本を出版2004年、全米平和省会議、ロンドンサミット2005年、平和省勉強会、合宿、キックオフコンサートなど2006年、JUMP ができるまでの歴史、東京や千葉で平和省プロジェクトが立ち上がっていることを話す。



ロイヤルローズ大学の前の日本代表団

オーストラリア: 発表者ビアンカ・パチェ。まだできたばかりの若いグループ。平和団体の連携を強めて、ロビイングやイベントを通して草の根の運動をしている。これは時間がかかる方法だけれど、確実に大きくなる。

カナダ: 発表者ソウル・アーベスピクトリア、バンクーバー、オタワに平和省支部ができています。バンクーバーは活発。平和省法案のドラフトができていますので発表した。平和教育、軍縮、市民平和サービス、家庭内暴力など5つの分野。

== 休憩 ==

ネパール: 発表者マニッシュ。まだ生まれたばかりの運動。平和運動、NGA、政府職員などと一緒に活動中。

ソロモン: 発表者フレッド・ファカリイすでに平和省ができて4年。ごく少ない予算でコーディネーターの役割を担う。メンバーは40万人の平和ワーカー(一般市民)。しかし紛争は続き、政府が不安定でいつ平和省が廃止されるかわからない。国際社会の助けが必要。

ウガンダ: 発表者ピーター・ルクビア。内戦や戦争が続く中で、平和省をつくる運動は大変。ここに来るのも困難だった。

フィリピン: フランクリンとカロイが発表。平和省がある。ミンダナオで4つの平和プロセスが進行中。フランクリンは2回暗殺されかけたことがある。

オランダ：発表者ポール・ヴァントンガラン。オランダは代表でないけれど、GPPACの話。第1回に比べて第三世界の代表がたくさん参加していることがうれしい。1回目もよかったけれど、北の国が多くバランスが悪かった。地域での紛争解決グループの世界的ネットワーク。「People building peace」の代表を国連に。大切な3つのポイント。1、ロビーが大事。国、地域(アフリカ、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、オセアニアなど)、そして国連のレベルでのロビイング。2、対市民。気づきを促すキャンペーン。もっと平和省運動を担う人が必要。3、教育。平和教育の必要性。4、ネットワーキング。特に南北間。そして地域間。

スペイン(カタルニア)：発表者ロレナ・フェルナンデス。カタルニア開発協会ができたのは、イラク戦争への反対運動から生まれた。平和構築を担当している。パレスチナの平和プロセスにもかかわる。平和推進法がカタルニア議会で2003年に可決。カタルニア平和推進議会ができる。

イタリア：発表者カロリナ・ビニー・イノチェンティ。平和省のルーツはオーストラリアにある。ダイアナに出会って平和省運動にかかわる。昨年10月にロンドンの国際平和省会議に参加して、イタリア(45年在住)でステアリグコミティーを作った。ちょうど総選挙だったのでロビイングはできなかった。「イタリアの役割はヨーロッパのピースメーカー」と政府に話をしはじめてある。イラク戦争に反対した左派政党が議席を伸ばしたので、勇気づけられている。テロリストと戦うのに武器はいらない、というのが多くのイタリア人。自分は英語しか話さないので、言葉の問題がある。



6月21日に会議終了後に先住民のギャラリーで行われたパーティーにて

カイ: Civil Peace Service がイタリアにできつつある！

パレスチナ: 発表者ゾグビゾグビ。希望は危険であると同時に、草の根の平和運動はたくさん生まれている。草の根、団体、イスラム教、政府のレベルで平和省は語られている。ノルウェーの仲介で平和プロセスが少しずつ進んでいる。今の政権がつづけば平和省ができると思う。Minister of Reconciliation (和解省)はある？

インド: 発表者ラダクリシュナ。37年間平和省の要求はあったが何も起きない。3-4年前に重要なことがおきた。インドの核兵器所有、核実験の成功は平和省のプロセスが必要。クシニッチと2001年9月10日に出会い、交流が始まる。インドのような複雑な国で平和を優先することは難しい。道は遠いが、ガンジーの楽観主義でもって長い道を歩き始めている。2006年9月11日はガンジーが非暴力抵抗運動を始めて100年。2月11日10万人の平和省設立要求の署名を提出した。

コスタリカ: 発表者リタ。コスタリカに13年住むアメリカ人。コスタリカは軍隊がない。平和省があり。5月8日にノーベル平和賞受賞者のオスカー・アリエス大統領が就任。心配事を聞くことが大事。コスタリカはお金がない。非効率な官僚。暴力の増加。平和を維持したいが心配。政府のリーダーの話をよく聞いて、それに合う戦略を提出。Ministry for Justice を Ministry for Peace and Justice にする。Office for Peace をファシリテーターにする。Peace Army を全国レベルにする。

ニュージーランド: 発表者ケイト・スミス Peace through Unity が平和省運動を推進している(NGO)。The power lies at the foot of the mountain. Together we can move the mountain. 力は山の麓にある。一緒にやれば山も動かせる。

ルーマニア: 発表者カイ。まだ国レベルのキャンペーンはない。2007年にEUに加盟。開発協力のあらゆるレベルに調停や平和構築の訓練をする。平和研究所(Peace Institute)がある。黒海地域平和構築フォーラム。早期警告メカニズムをつくり、紛争を事前に予防。年間300人がトランセンド(平和研究所)で訓練を受けている。トランセンド平和大学を開校。

発表者コリナ・シモン:(国際イニシアティブの事務所を昨年10月から担当)。

ニュージーランドには Minister of Disarmament がある: 発表者アラン。軍縮議員連盟の事務局。軍縮は平和省の一部だが、すでに軍縮省が存在している。現在、平和省を考慮している。平和都市。クライストチャーチが先進的。平和市長会議を行った。年間に1週間学校で平和教育をしている。



平和省グローバルアライアンスが誕生した。中央がアメリカのピースアライアンスを代表するドット・メイバーさん

私達の運動を強化するためには、何が必要か、5分間で考えてください。それを午後にやります。

9月11日サチアグラハ100周年。サティ= 真実 アグラハ= の追及。真実の追究、という意味(そうだったのか!! 『テロリストは誰?』の第10章に出てくる言葉だけど、

意味がわからなかった)。

9月21日国連平和の日。

10月2日 ハマトマガンジー生誕。

平和の教育の日をやってはどうだろうか。

"Towards the One the perfection of love, harmony and beauty" Louise Taylor, Cor  
Unum (one heart), Victoria ピースポールは地球へのヒーリングの鍼灸のようなもの

午後のセッション。

アメリカの平和省プレゼンテーション:ドット・メイバー。

平和省法案が提出されたのは85回もある。しかし草の根運動が伴っているのは今回  
がはじめて。

もっと非暴力と平和な社会をつくる。平和の文化。

全国レベルのスタッフは10人。フルタイムではない。サポートスタッフ。私達は平和省  
の実現に奉仕するサポーターであり、責任も仕事も分かち合っている。

50州にステートコーディネーターがいて、彼らをサポートしている。440人の選挙区  
ごとのリーダーも必要。

ロビイング:2つの質問をする。

1、国内の暴力を減らすために何をしますか？

2、平和省法案に対するあなたのスタンスは？

平和は儲かる！平和の文化。11 Days of Unity Sept 11-21.

サチィ(真実)ヤグラハ(追及):真実の追究。

トレーニングはNVCとロビイングについて。母の日、父の日、際平和の日。

=====

どうやって強化するのか？ブレインストーム。国内レベル、国際レベルで。

プロポーザル:

地域会議

11 Day of Peace Celebration : Diversity in Unity

ハグ(抱き合う日)Day.

平和都市、平和市長との連携。

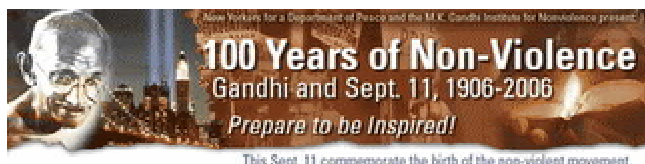
Knowledge is Power. UN Declaration of Human Rights の歌や劇をつくる



メディアキャンペーン: 2006年9月11日から21日

メディアキットをつくる。

サチアグラハのトレーラー: <http://www.nyc-dop.com/gandhi>



9月11日にガンジーの映画を見る日(コロンビアムービー)

リサーチ、メディア

ワーキンググループ

ネットワーキング

コミュニケの作成。

=====

夜のステアリングコミティーで。

これから国際グループをどのように運営するのか話し合う。昨年から今年まで1年間務めた運営委員会のメンバーはそのまま引き継ぐ(わたしもその一人)。

コミュニケの作成は、3人以内で。

ユースの国際会議をコスタリカの平和大学で開催。

次回の開催地をどこにするか。オーストラリア、日本、コスタリカ、ルーマニア、インドなどが候補にあがっている。